

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <北海道 飲料>

消費マインドが弱含みで、売上高は横ばい。販売価格も消費者の節約志向に伴い、小売店が積極的な安売り攻勢を強めており、そのシワ寄せがメーカーに及びつつある。

2. <岩手県 麺類>

売上げは横ばいだったが製造コストの増加は変わらず、利益の確保が出来ない状況が継続。原料費、人件費、物流費の上昇分を価格転嫁できない。今後も改善の見込みは立たず。

3. <茨城県 納豆>

天候不順で観光客が少なく、全体的に売上げが悪化。また人員不足も深刻化。最低賃金の上昇による人件費の増額分を製品価格に転嫁することが難しいため、厳しい状況が見込まれる。

4. <埼玉県 肉加工品>

9月の豚の相場は1kg当たり500円を中心に上下した。10月、11月は加工品需要が見込まれる時期となるので、輸入品の動向とともに相場を注視していきたい。

5. <新潟県 菓子>

残暑が厳しく、洋生菓子類は低調。和菓子も箱詰め等の進物が振るわず、客単価は下落。今後も台風の影響で小豆等原材料の高騰を懸念している。

6. <香川県 冷凍食品>

相次ぐ台風が発生等、天候不順で外食や量販店が低迷。また円高の影響により、価格抑制の動きも出ている。原料価格は安定しつつも、人員のコストアップを中心として製造コストが上昇している。

7. <愛媛県 水産加工>

台風の影響や時化で出漁出来ない日が多く、原料魚が高騰。他方、蒲鉾の原料は売行きが悪く、少量にも関わらず安値となっている。

8. <福岡県 漬物>

度重なる天候異変や農業者の減少による原材料不足と、常態化している人手不足により経営が悪化。

繊維・同製品製造業

9. <山形県 織物製成人女子・少女服>

服地は百貨店での販売を主としているフォーマル系のアパレルが特に苦戦し、生産調整も進んでいることから、定番品の発注もなくなり、非常に厳しい状況が続いている。採算も悪化。

10. <東京都 縫製>

台風や大雨の影響で秋物の衣料品が売れず、業界は全般的に低迷。依然として消費者の買い控えが続いており、経営を取り巻く環境は厳しい。

11. <石川県 織物業>

中国経済の低迷や中東情勢不安から輸出は伸び悩み、国内需要も低迷し、加えて低価格志向が強くなり、受注が減少。厳しい採算性で推移している。

12. <福井県 織物工業>

売上げは決して好調ではなく、不安要素だけが累積しているが、先行きの悪化感は少し払拭されている。ただし、設備投資意欲はあっても、銀行からの借入れ等が難しいのが実情。

13. <和歌山県 その他>

9月は決算期を迎える企業が多く、市況が軟化するが今年は例年以上に悪化。確かに長雨や台風の影響で小売が芳しくない事もあるが、首都圏百貨店の閉鎖等も影響しているようだ。

14. <山口県 外衣・シャツ>

継続発注のある製品も在庫過多となり、発注を見合わせている。メーカーも様子見の発注が続き、不安定な受注状況が継続。

15. <鹿児島県 絨織物>

原料高騰により、糸単価が上昇。しかし、販売価格は変わらない状況であり、織屋（はたや）の資金繰りが悪化している。後継者育成も検討中だが、賃金の問題もあり難しい。

木材・木製品製造業

16. <神奈川県 家具>

家具小売りまたは受注面での需要が低迷し、ここに来て一段と売上げ減少が厳しいとの声が大きくなっている。また人手不足による人件費アップ・人材確保の難航、良質木材の確保が難しい等の問題も構造化している。

17. <岐阜県 ひのき>

受注量は変わらないが、安価な製品しか売れない。需要と供給のバランスが悪化している。

18. <奈良県 製材>

厳しい状態が継続。雨が多く、丸太出材も悪く原木高の傾向が続いている。荷動きも悪い。

19. <岡山県 製材>

製材品は低調だが住宅着工は堅調に推移しており、今後の需要拡大が期待されるものの、集成材へのシフト、円高進行による外材との競合に先安感が強まる等、不透明感が強い。

20. <徳島県 木材>

長雨の影響で原木丸太が供給不足で価格も横這い。秋需期に入り、売上高も改善されつつあるが、前年比で新設住宅需要は低迷して減益となっており、厳しい状況は変わっていない。

21. <大分県 製材>

借入金利の低下により、新築住宅が若干増えているように感じる。ただし、大手メーカーの影響で販売単価は下落傾向にある。

紙・紙加工品製造業

22. <群馬県 紙製容器>

販売先からのコストダウン要請も厳しい。原材料の値上げの動きは見られないが、天候不順による野菜等の不足や観光地の入込客数の減少等により、需要に影響が出ている。

23. <三重県 紙器段ボール>

台風や長雨で日照時間が短くなり、農作物の出荷が減少。工業製品向け、食品向けの段ボールの動きも昨年を下回っている。

24. <京都府 紙製容器>

受注は若干増えたが、他社からの競り込みも増えており、販売確保のために価格を抑えるケースも出てきた。過当競争で企業同士の体力勝負となっている。

25. <高知県 機械すき和紙>

秋以降に向けて生産、出荷ともに上向き傾向が見られる。

印刷

26. <岩手県 印刷・同関連>

夏以降の需要の低下傾向が全体的に続き、台風10号の被害の影響もあり、沿岸地区は好転の兆しがまるで見えてこない。

27. <富山県 印刷>

円高による原料安を理由に値下げ要求が強まり、製紙会社も応じているようだが、大手企業等は恩恵があっても、中小に好影響はない。

28. <大阪府 印刷>

春以降も受注が伸びず、固定費の増加分を含め、財務内容は悪化。天候も8月の猛暑、9月の台風及び長雨等の影響で全体的に荷動きが悪くなっている。消費はインバウンドによる爆買いも一服感が出てきた。年末商戦の受注も鈍い。

29. <高知県 印刷>

官公需、一般印刷物ともに低調。特に一般の落込みが著しい。7月～9月連続で前年割れ。10月～11月の秋需にも不安感が強い。

30. <鳥取県 印刷>

デフレマインドが継続。大都市でもチラシ等の大型案件の数量が低下しているため、地方へ流れるものが少なくなっている。当分は販促及び広告の紙離れの傾向は止まりそうにない。

化学・ゴム

31. <長野県 プラスチック製品>

成形品は減少しており、特に金型受注の落ち込みが大きい。主要取引先の受注状況は全体に弱含みの傾向が続き、見通しを修正せざるを得ない。減少要因として内製化の動きもあり、穴埋めを新規案件に期待するも難しい状況。

32. <和歌山県 化学工業>

農薬中間物を除き他は低調。景況IDもマイナス幅が少し改善しただけで、先行きは不透明。

33. <岡山県 ゴム>

3月頃から為替レートが2割ほど円高に進み、輸出関連の業績が悪化傾向で受注が低迷。原料価格は低水準で推移しているが、ここに来てカーボン類が少し値上げ傾向にある。

34. <広島県 ゴム>

先月同様、景況感の改善は見られない。自動車業界に納入している部品メーカーも、国内生産台数の減少や為替差損の影響が継続。また人手不足により、残業管理にも難儀。先行き不透明感は強まる一方である。

窯業・土石製品製造業

35. <宮城県 生コンクリート>

生コンクリート出荷量は、県全体で174千 m^3 （対前月比120%・対前年同月比101.1%）と増加。主な要因は稼働日数増によるもの。仙台地区は河川災害公共工事の生コン現場打設等により、やや好調に推移。

36. <山梨県 骨材・石工品>

諸資材の高騰で利益率が下降し、設備投資が出来ない状況が続いている。さらに、RC（再生材）材は公共事業に積極的に使用することとなっているが、現実には17%の減少となり、官需の減少が顕著となっている。

37. <石川県 陶磁器・同関連製品>

売上高、収益状況ともに悪化傾向。消費低迷の度合いが段々と厳しくなっている。天候も比較的温暖で過しやすくなっているが、消費は悪い。観光客は多いが財布の紐は固いようだ。

38. <熊本県 砕石>

熊本地震の復旧・復興事業はまだ本格化しているとは言えないが、地震関連での需要が出ている。今後は砕石の需給ギャップ（供給不足）を生じさせない対策が必要である。

39. <大分県 屋根工事>

9月は毎週台風に悩まされ、仕事が遅延。天候に左右される職種であるため、仕事は抱えていても、着手できない状況がある。

40. <沖縄県 コンクリート製品>

9月が組合決算期だが、年間出荷量は前年比23%減少。4月に製品価格を一部値上げしたが、体力のある大手等は依然として低価格を維持しているため、十分な価格転嫁は出来ず、収益も低水準が継続している。

鉄鋼・金属製造業

41. <岩手県 鋳鉄铸件>

インバウンド（中国）等への鉄瓶、急須の売上額は大幅に減少。輸出は中国への鉄瓶、急須、鉄鍋の売上額は、円高等の影響で若干減少した。欧米へのティーポット輸出量は景気低迷並びに社会情勢が不安定なため、減少している。

42. <宮城県 表面処理>

自動車関連が若干横ばいから下落。電子機器や部品は昨年の勢いが無い。また輸出向け重機メーカーは良し悪しで、全体的にあまり良くない。設備投資も減退している。

43. <栃木県 金属製品>

家電の減産調整が続いている。（売れ行きも不振）

44. <神奈川県 工業団地>

不透明な経済環境が継続。日銀のマイナス金利策も現場では全く影響なし。むしろ、貸し渋りに走る銀行も出て来ており、悪影響となっている。

45. <岐阜県 鍍金>

先月同様、受注量の少ない状態が続いている。堅調だったインバウンド向け土産品等も減少し、中国向けの高級自転車部品の生産も勢いが無くなり、中国経済の減速が顕著に表れている。

46. <三重県 鍍金>

電気関連は国内メーカーの不振から増産には至らない。半導体関連は増加傾向にあり、人出不足が継続しており、派遣等の非正規雇用者もなかなか集まらずに苦慮している。

47. <富山県 鋳鉄铸件>

中国経済減速の影響を受け、建設機械、産業機械とも低迷。回復の兆しが見られない。

48. <兵庫県 鉄鋼・金属>

4月以降は落ち込んでいるが、9月でさらにもう一段落ち込み始めた。受注案件が少なく、仕事の残量が少ない。非常に厳しくなっている。

49. <福岡県 砂・砂利・玉石採取業>

年度を通して需要低迷を想定。当月までの実績も、官民需要ともに下落傾向が続いている。

50. <沖縄県 鉄鋼>

大型商業施設・ホテル等の建設計画はあるが、台風や悪天候の被害から着工できない案件が多数ある。また台風も多発し、船便の運休や悪天候による工事遅延も重なり、鉄製品の出荷に影響が出た。

一般機器製造業

5 1. <静岡県 生産用機械器具>

円高・株安が続き国内経済が不安定化。特に自動車関連の下請け企業の仕事量は激減しており、円高の影響と思われる。先行き不透明な現状が長期化すると予想。

5 2. <三重県 一般機器>

景気回復の実感が得られぬまま年初から9か月が経過した。企業存続に努めているが、経営環境は円高や原材料価格の高騰が重くのしかかっている。

5 3. <岡山県 一般機械器具>

人員確保が難しく、新規受注にも対応できない。離職防止のために人件費を上げており、収益は悪化している。

5 4. <山口県 一般機械器具>

自動車関連では新車開発の先行投資とみられる受注が順調だが、海外工事関係は依然として受注が無く、全体的に動きが鈍い。

5 5. <徳島県 機械金属>

業況は弱含みで売上高及び引合いの減少も見受けられる。依然として、景況感改善の動きは見られず、経済の好循環に向けた早急な対応が期待される。

5 6. <島根県 一般機械器具>

仕事や受注内容が変化し、既存の人員と設備では対応できない状況が出ている。

電気機器製造業

5 7. <群馬県 民生用電気機械器具>

円高が原因で大企業が低迷し、親企業からのさらなる単価引下げや短期納品等の要請が懸念される状況が出ている。

5 8. <山梨県 電気機械器具>

世界的に経済が冷え込んでいるため、業況が全体的に前年より悪化し続けている。

5 9. <静岡県 電気機械器具>

8月、9月と天候不順の影響でエアコン、冷蔵庫の販売は低調。

6 0. <広島県 電気機械器具>

輸出物件が停滞し、国内ではスマートメーター以外は横ばい。また最低賃金の上昇や残業規制が厳しくなれば、経営が圧迫される。取引先に価格交渉をしているが、厳しい状況。

輸送用機器製造業

6 1. <神奈川県 船舶>

新造船市場は船腹過剰による業界不振に改善の兆しは見えない。商談自体に限られる上に、円高が進行し、為替面でも日本企業が受注しにくくなっている。

6 2. <富山県 自動車部分品・附属品>

売上高は全体で4.9%増加したが、収益は経費が増加したことによって悪化した。

6 3. <愛媛県 造船>

中国経済の減速を受け船舶の需給バランスが大きく崩れ、昨年の夏ごろから急速に運輸不況が表面化。直近では海上運賃が上昇してきているようだが、先行きに明るさはなく、新造船の新規取引も出てくる状況にはない。

6 4. <大分県 造船>

世界的な経済低迷や国際情勢不安、また100円近辺で安定しない円高相場等から業況は厳しい。当組合も今後は操業量を落とさざるを得ない状況にある。

《非製造業》

卸売業

65. <北海道 果実・野菜>

台風10号の影響が大きく、被害を受けた上川・十勝地方の人参出荷が大きく減少。他地方についても、度重なる台風の影響により、例年に比べて品質に難があった。馬鈴しょ・玉葱についても収穫の遅れがあり、さらには道路網及び鉄道網の寸断で一時的に出荷できなかった。

66. <秋田県 米麦>

28年度産米の集荷が始まったが、非常に厳しい集荷環境。販売価格は前年度対比1,000円(60kg)以上上昇しており、末端精米価格改定の中で消費者に受け入れられるか不安。

67. <宮城県 ゴム製品>

9月も休みが多く台風と天候不順により、農業・漁業に影響があり、売上げは不調だった。

68. <千葉県 総合卸>

台風の上陸が例年に比べて多く、原料野菜等が被害を受けて仕入価格上昇。販売価格への転嫁も難しく、採算性は悪化した。

69. <愛知県 水産物>

台風と秋雨前線の影響で生鮮品は打撃を受けた。収穫物や生産施設の被害、出荷拠点の被害等に加えて消費マインドも冷え込んで、売上げに影響を及ぼした。

70. <奈良県 青果>

度重なる台風・豪雨で野菜の被害大。入荷商品に傷みが生じて返品等が大量に発生し、売上げは野菜・果実とも昨年同月比の92%、利益額はともに50%にも至らなかった。

71. <大阪府 電気機器>

前年同月比で荷動きが鈍化。減収・減益の企業が増加し、採算面も悪化の割合が増えている。

72. <滋賀県 電気機械器具>

商品別には太陽光関連、電線・弱電線が大幅に売上減少。特注・件名関係も同様。また季節商品(冬物)についても昨年に比べてダウンしている。

73. <鹿児島県 総合卸>

円高による仕入価格の下落等の影響はあるが、消費増税延期後も低価格志向・節約志向が強く、売上高・収益ともに厳しい。依然として人手不足も強く、人員確保のための賃金アップに加えて最低賃金の引上げもあり、経営は厳しさを増している。

小売業

74. <宮城県 青果>

台風と連日の大雨は北海道を含む主要生産地に被害を及ぼし、品質低下と価格高騰、品薄等大変な月だった。全ての農産物が高く、品薄で在庫は持てず、あまりにも価格が高いため、消費者の購買動向も量販店の加工食品や惣菜に向き、売上げ・収益ともに悪化した。

75. <茨城県 石油>

原油価格が安値で推移しており、ガソリンの販売価格は前年同月比12円下落。仕入価格を下回るような安値競争もあり、廃止・休業等に追い込まれる給油所が後を絶たない。

76. <栃木県 花・植木>

お盆以降、次々と上陸する台風の影響で開花の遅れや生育不良が発生し、市場では菊類を中心に入荷量が低迷。彼岸中も曇天に大雨と天候に恵まれず、店頭での動きは弱い。

77. <富山県 ガソリンスタンド>

石油製品の販売減少と競争激化に伴い、収益率が低下。営業利益は小売平均の半分以下まで下がり、大変厳しい状況。ガソリン、軽油も販売量が減少する中、安値店との競争が激化しており、販売価格は横ばい。

78. <石川県 鮮魚>

残暑や台風の来襲、連休による消費疲れから日常食材への消費は減少。観光客も全体として減少。業況は台風等による悪天候と魚介類の入荷の減少により、前年より悪化。

79. <京都府 米穀類>

新米の収穫時期になり、28年産の仕入価格が上昇しているが、販売価格の値上げに頭を悩ませている状況。

80. <島根県 各種商品>

一品価格の下落（デフレ化）と客単価の低下傾向等、購買意欲が減少している。また雇用したくとも応募すらない状況であり、人員確保が難しい。

81. <香川県 電気>

消費マインド低迷が長期で継続。量販店等も価格訴求を強めており、安売りセールと称して、お得感を強化する商法に躍起になっている。

82. <佐賀県 食料品>

台風で入荷量が減少し、市況が高値で動いた。仕入れ値を販売価格に転嫁出来ず、収益が悪化。旬の秋鯖、秋刀魚等の入荷量が減少。

83. <長崎県 青果物>

北海道方面への台風で農産物に深刻な被害が発生。特に人参、玉葱、じゃが芋の3品目は、9月の全国シェアの多数を占めるため、未経験の高値。また価格転嫁も出来ず、粗利も圧縮。

商店街

84. <青森県 青森市>

残暑の影響で秋物への移行が進まず、ファッション系統にとっては厳しい商況だった。

85. <群馬県 渋川市>

天候不良で農作物に影響が出ており、米も値上がり傾向。しかし、大手が値上げしなければ、中小の値上げも叶わず、結果的に薄利で納入することになる。好況時は薄利でも資金繰りが可能だったが、消費低迷の現状では非常に苦しいのが実態。

86. <新潟県 新発田市>

悪天候や農繁期で集客は低迷。また節約・儉約傾向が激しさを増しており、客単価も低下。日銀の金融緩和策も将来不安を呼び起こし、物販・飲食・サービス業のいずれも悪化している。

87. <岐阜県 高山市>

秋雨前線と台風で雨の日が続き、商いにも影響した。またインバウンドも目立つほどには消費に繋がらなくなっている。地元の消費者も不要な支出は避けており、財布の紐は堅い。

88. <京都府 京都市>

度重なる台風の襲来と長雨の影響で、景況も悪化。「デフレからの脱却」も遠く、物価がまたもやデフレ傾向にある。大型スーパーや食品チェーンとの競争が激しくなっている。

89. <香川県 高松市>

残暑が続き、衣料品の動きが悪い。景気の停滞感が重しとなり、消費意欲は落ち込んだままの状態。また飲食関連はデフレ傾向が顕著で低価格競争が激しくなっている。

90. <熊本県 天草市>

天候等の影響で夏物商品の売れ行きが年々早まっており、シーズン後半には品物が動かなくなることも多いため、早めの品揃えと販売対応が必要となっている。

サービス

9 1. <秋田県 旅行業>

売上げは、前年同月比で国内旅行は125.8%、海外旅行は68.0%で推移。国内旅行は好調を維持しているが、海外旅行は低迷。

9 2. <栃木県 旅館・ホテル>

相次ぐ台風とシルバーウィークの日並びの悪さで、宿泊者数は全体的に前年度を下回った。また昨今は人材不足で連休時思うように集客できない状況も出てきている。

9 3. <東京都 飲食>

台風等による天候不良で野菜が高騰し、また長雨で客足が鈍く、最悪の状況だった。

9 4. <山梨県 ホテル・旅館>

円高と帰国時の中国関税の影響から、中国人旅行客が減少している。

9 5. <兵庫県 美容業>

9月は例年になく長雨・台風が多く、集客が低迷してしまった。

9 6. <愛媛県 ビルメンテナンス>

10月1日から県の最低賃金が21円上昇。当業界は人件費が大きな比率を占めており、競争入札で契約単価も上げにくいことから、引き続き厳しい状況が続くと予想。

9 7. <山口県 クリーニング業>

例年9月は閑散期で夏物衣類の出待ちといった感じだが、今年は度重なる台風の影響や雨が多かったため客足が非常に鈍化した。

9 8. <高知県 旅館・ホテル>

天候不順・台風等の影響もあり、観光・ビジネス客は減少傾向。また材料費(特に野菜類)の高騰も顕著となっている。

9 9. <宮崎県 観光業>

熊本地震による旅行のキャンセルが相次いだ春の繁忙期の分を取り戻しつつあるようだ。そのため、9月は若干売上げが上がった。

建設業

100. <宮城県 建設>

震災復興事業の最盛期が続いている一方で、昨年9月の豪雨災害による本復旧工事も発注が本格化しているが、不調不落が高水準で推移。震災復興は円滑な施工確保のための諸施策が講じられて順調に推移しているが、その他は通常の災害復旧で柔軟な対応がなされていない。円滑な施工確保のためにも県内工事は同様の扱いが望まれる。

101. <愛知県 建設>

台風や雨の天候不順が多く、操業日が15日間程度だった。屋外作業は天候に左右される。

102. <広島県 工事>

年度末工期の案件を抱え、現場の稼働率は上昇傾向だが、人手不足や職人不足といった人員確保の問題が浮き彫りになっている。

103. <長崎県 建設>

公共・民間工事量は減少。受注競争が厳しい中で技能者の高齢化や人員不足もあり、下請け業者の確保が難しい。そのため、専門工の賃金単価が上昇しており、元請け企業もコスト削減を図っているが、採算は厳しい。

104. <熊本県 総合工事>

本地震からの復旧・復興工事が始めている。国・県・市町村と同時一斉に発注があれば、人手が足りず、入札の不成立や不調・不落が多発することを懸念。復旧工事が遅れる原因となるため、業界は発注者側に調整を申し入れている。

105. <鹿児島県 建設>

公共事業が年々減少している中、特に今年度は工事が小型化し、受注も極端に減少。また年末からの需要期も人手不足の状況で大変厳しい施工を行っているため、安全性も考慮し、早期発注を望んでいる。

運輸業

106. <北海道 一般貨物自動車>

台風の影響による農産物の出荷量減少に伴い、稼働減少。他方、通行止め路線も多く、各社走行距離が増えるため、ドライバーの負担は増加。

107. <青森県 一般貨物自動車>

6月頃の寒さから遅れた野菜は、さらにその後のヤマセ・台風による大雨の影響等で出荷数量が減少した。

108. <秋田県 トラック>

新米出荷も始まり、運送量は回復傾向にあるが、労働基準（労働時間制限）遵守のため、高速料金、人件費等の経費が増加している。

109. <長野県 道路旅客運送>

節約志向や不景気の影響等もあり、夜間客の動きが悪く、タクシー利用者の低迷が継続。さらに乗務員不足もあり、売上高・収益の悪化に繋がっている。

110. <島根県 道路貨物運送>

荷動きは往路、復路ともに低調。当月は米の出荷時期だが、米の需要が減少していることもあり、農家からの集荷及び県外向けの輸送は停滞。また県内ダンプ関連が本格稼働しているが、ダンプ車両の手配に苦慮する場面が出ている。

111. <宮崎県 貨物運送>

燃料価格が低水準で推移しており、経営状態は良好に見えるが、荷動きは悪く車両の稼働率も伸び悩んでおり、利益確保に結びついていないようである。

112. <沖縄県 トラック運送>

前年同月比較し、景況感は悪化。台風襲来の影響による船舶の入港スケジュール変更で荷動きが鈍化した。